

「水素・その可能性と将来展望」

～千代田化工建設は、水素で世の中をどう変えるのか～

12月3日（火）、千代田化工建設株式会社の執行役員プロジェクト開発事業本部本部長代行の細野恭生氏を講師にお招きして、“究極のクリーンエネルギー”である水素をテーマにお話いただいた。

講演に先立って小俣会長から「本日のマネジメントセミナーは会員情報交換会も兼ねたものとして開催させていただいた。テーマは、まさに旬なもので、これから先の資源エネルギーの構造的な変化の方向性を紹介いただく。我々もそれぞれの認識を改める必要があるのではないだろうか。講演ももちろんだが、今年度から協会として取り組みを強化している Face-to-face の情報交換の場も是非ご活用いただきたい」との挨拶があった。

【講演要旨】

- ・水素は「扱いにくい」エネルギー源である一方、そのクリーンさは誰もが認めるところである。
- ・一次エネルギーの世代交代が進む中で、水素に対する期待と可能性は大きくなってきた。
- ・特に、再生可能エネルギーの重要性が高まり、また CO2 削減の観点からも、間違いなく水素が主役になる時が来ると考える。
- ・当社は、水素をトルエンに結び付けることで、常温・常圧で取り扱えるメチルシクロヘキサン (MCH) という液体「SPERA (スペラ) 水素」にしてこれを輸送・貯蔵し、それから再び水素を取り出す技術を実用化した。<*SPERA：ラテン語で「希望せよ」という意味を持つ言葉。>

- ・これにより、水素が活躍する可能性が大きく広がり、低炭素社会における主役にもなれる。

- ・水素の利用分野は、発電用から各産業、また燃料電池車輛や家庭用など、とても幅広くどの分野でもそのクリーンさは高く評価されている。

- ・今後の課題は、まず認知度を上げることと、サプライチェーンの構築と充実、そして、コスト競争力の強化になる。主役を張るために頑張りたい。

参加者からは、「既存エネルギーと比べたコスト競争力でも水素利用の可能性が極めて高いことが理解できた」、「既存インフラが活用できることや安全性についても認識を深めることができた」などの感想が寄せられた。

講演後の情報交換会は、弟子丸副会長（JFE）の挨拶で開会、参加者相互の交流がさらに深められ、予定時間を少しすぎたところで、阿部副会長（アマダ）による 3 本締めで解散となった。

